

社会福祉援助技術論Ⅲ (グループワーク)

~20◆

科目コード●C J 4 1 2 8

担当教員●熊谷和史



2 単位

R

3 年以上

この科目は、平成20年度以前入学者に対して開設されている科目です。平成21年度以降に入学した方は、履修することはできません。

科目の内容

人は生まれてから死ぬまで一生、好むと好まないに関わらず、様々な大小の集団（グループ）に所属ないしは包含された中で生活をしています。例えば、家庭、学校、職場、サークル、地域活動（町内会）等々です。そして、私たちは、こうしたグループから様々な影響を受け、学習し、経験を重ねながら、個人の人格や価値観、あるいは社会的な行動を形成していきます。その意味で、善し悪しは別にして、グループは人が社会的に生きるために重要な基盤（あるいは環境）といえます。

ところで、しばしばグループワークといえば、単なる「グループ活動」や「グループ単位の作業」と捉えられる場合があります。例えば、スポーツや団体競技、あるいは工作などの共同作業やミーティングなどをイメージするかもしれません。

しかし、社会福祉援助技術としてのグループワークとは、対人援助技術の一つの体系であり、単なるグループ活動とは違います。そして、グループワークの援助方法は社会福祉のみならず、医療、臨床心理、社会教育などの分野で幅広く用いられています。さらに、グループワークが使われる場も様々で、例えば、障害を持つ児童の夏期キャンプ、児童館、福祉施設、病院、各種支援センターなど、人が集まるあらゆる場で用いられています。

そこで本科目では、グループワークとはそもそも何か、その意義と目的を学びます。そして、グループワークの展開過程から、固有の方法・技術について学びます。

到達目標

- 1) グループワークとは何かを説明できる。
- 2) グループワークの実際の運用について理解できることを念頭に、レポート課題1単位めについて下記3) 4) を、課題2単位めについて p.27 5) 6) を目標として設定する。
- 3) 現代社会の中でグループワークの意義を説明できること。

- 4) グループダイナミックスの効用を理解し、そのいくつかを考察できること。
- 5) 各展開過程でのグループの状態と援助者の役割をそれぞれ説明できること。
- 6) 各展開過程を通じて、グループワークの運用を一体的に理解できること。

履修登録条件

この科目は、「社会福祉援助技術論Ⅰ」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録できます。

教科書（社会福祉援助技術論Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ共通）

- 1) 福祉士養成講座編集委員会編集『新版 社会福祉士養成講座 8 社会福祉援助技術論Ⅰ（第3版）』中央法規出版、2006年
- 2) 福祉士養成講座編集委員会編集『新版 社会福祉士養成講座 9 社会福祉援助技術論Ⅱ（第4版）』中央法規出版、2007年

※社会福祉援助技術論Ⅰと共通のため、この科目での教科書配本はありません。

レポート課題

1 単位め	グループワークの意義・目的を述べなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題
2 単位め	グループワークの展開過程を述べなさい。

アドバイス

1単位め解説 そもそも一般的にいわれるグループとは何かについて述べた後、グループワークの捉えるグループとは何か、その意義と目的について以下の①～⑤を中心にまとめ、最終的には、つまりグループワークとは何なのかについて簡潔に述べてください。

一般的なグループの意味については、教科書1)のpp.168-173を参照し、特に、①個人とグループの関係、②社会化と再社会化、③現代におけるグループの意義をまとめます。

グループワークの意義と目的については、教科書1)のpp.91-107、pp.149-157、pp.173-178、pp.212-227を参照し、④グループワークの定義、⑤治療教育力をまとめます。特に治療教育力は重要ですので、よくまとめてほしいと思います。

さらに学習を深めたい方は、下記の参考図書から様々なグループワーク・モデル（治療モデル、交互作用モデル、ヒューマニズムモデル、社会的諸目標モデルなど）や理論形成

に至る歴史的背景などを学ばれると良いと思います。

2単位め 解説

実際にグループワークがどのように運用されるのかを述べながら、グループワーク固有の方法・技術について学んでいきます。

グループの展開過程は、①準備期、②開始期、③作業期、④終結期があります。このことについて、教科書 1) の pp.212-227、pp.238-247、教科書 2) の pp.68-96、pp.371-377を参考にコンパクトにまとめてください。

なぜコンパクトなのかといいますと、例えば、準備期に行われる手順＝「計画」、「形成計画」、「波長あわせ」などの内容一つ一つを説明していくと大幅に規定の字数を超えてしまうからです。

規定の字数内でまとめることも学習の一つであると考え、はじめに展開過程とは何かについて簡単に説明した後、①～④それぞれについて300字～500字で「まとめ」、最後にグループワーク固有の方法・技術とは何かについて述べてほしいと思います。

さらに学習を深めたい方は、教科書 1) の pp.192-202や参考図書 1) からグループワークの原則や援助媒体をおさえる。あるいは、具体的な展開過程などは教科書 2) の事例などを読むことをおすすめします。

参考文献

- 1) 野村武夫『はじめて学ぶグループワーク』ミネルヴァ書房、1999年
- 2) 黒木保博ほか『グループワークの専門技術』中央法規出版、2001年
- 3) 大塚達雄ほか『グループワーク論』ミネルヴァ書房、1986年

参考図書の 1) は、グループワークを総体的に捉えるには良いかと思います。2) は、事例をふんだんに盛り込み、展開過程で気をつけるポイントなどが詳細に述べられていて実践的だと思います。3) は、場面別のグループワークの活用例など示唆に富みます。また、参考文献や解説、用語の索引が充実しています。